



**でぐち・はるあき** ●1948年三重県生まれ。京都大学法学部卒業。1972年日本生命保険相互会社に入社、ロンドン現地法人社長、国際業務部長等を歴任。2005～06年東京大学総長室アドバイザー。2008年ライフネット生命保険株式会社創業、代表取締役社長に就任。2018年1月より現職。



# 私の改革論

立命館アジア太平洋大学 (APU) 学長

荒波に挑むトップ

No.26

## 「とがった個性」の学生が育つ とことん学べる大学へ

公正な競争原理の導入により、教育・研究と学生の学びを活性化

### 世界基準が求められる グローバル社会

今の日本の大学に必要なことは、学生が大学でもっと勉強するようにすること、これに尽きます。社会がグローバル化し、就職先もグローバル企業になると日本の学生は、世界中の学生と競争するよ

うになります。海外の学生は日本の学生よりはるかに勉強しています。アメリカの学生は1年間に100冊くらい本を読むと言われるほどです。両者が同じ土俵に立つたとき、どちらが厚遇されるかは自明のことです。このようにグローバル社会では、世界基準で競う必要があります。

しかし、これは学生側だけの問題ではありません。日本の社会における人材観が、いまだに高度成長期の「製造業の工場モデル」を引きずっていることにも原因があります。従順で協調性がある人材を求め、企業の採用面接では、クラブ活動やアルバイトでの活躍ぶりを高く評価する。これでは学生

が、勉強するはずがありません。今や日本ではサービス産業への就業者が3分の1以上を占めており、製造業のそれを大きく上回っています。サービス産業では、これまでにならぬたく新しいビジネスを創り出せる人間が求められます。そのため大学は、社会常識を疑う力や、人のまねをせず、好きなことを徹底的に追求する力などを備えた、「とがった個性」を持つ学生を育てる必要があります。

### 公正な競争原理が 社会を活性化させる

も有効です。これは社会にも「一石五鳥」の効果をもたらします。

- ①生涯働き続けることで健康になり介護が不要になる
- ②もう一方から払う方にシフトするの
- ③で医療年金財政が好転する
- ④年齢に関係なく働くことで年功序列がなくなり、同一労働同一賃金の考え方が社会に浸透する
- ⑤年功に頼らず働きに応じた賃金を得られることで中高年のやる気が増す
- ⑥その結果、少子化による日本の労働力不足も解消する、という5つの効果があるからです。とりわけ③は重要です。年齢に関わらず成果で評価されるようになれば、高収入を得るために学生の頃から勉強して、能力を高めようとするでしょう。

### 「人・本・旅」で 学ぶきっかけを提供

学生を勉強にいきなうには「人・本・旅」が効果的です。多様な人々と交流することで刺激を受けますし、本も知的な刺激を与えてくれます。時間的・空間的に日常を離れる旅は、客観的に自分を見つめる機会となります。

APUは、「人」の面では非常に恵まれています。なぜなら、学生の半数が、約90の国・地域から来ている留学生だからです。ダイバーシティという点では、日本の大学の中では突出しており、しかも1回生は寮住まいなので、人を混ぜる環境が整っています。

学生に「とがった個性」が求められるように、大学にも社会から当然同じことが求められます。APUは開学以来、国際性を前面に出した大学づくりを進めてきました。その「とがった個性」が、日本人学生の6割以上を九州以外から集め、THE世界大学ランキング日本版2018では、私学で5位、西日本の私学では1位という評価につながっています。

大学が自らの個性を磨くことは、財政基盤の強化にも効果があります。学生に「とがった個性」が求められるように、大学にも社会から当然同じことが求められます。APUは開学以来、国際性を前面に出した大学づくりを進めてきました。その「とがった個性」が、日本人学生の6割以上を九州以外から集め、THE世界大学ランキング日本版2018では、私学で5位、西日本の私学では1位という評価につながっています。

私は、将来的には大学にも同じ競争原理を導入すべきだと考えます。教員の場合、研究活動は第三者委員会をつくり、一定期間内の論文数や書籍数など客観的なデータをもとに評価する。一方、教育活動については学生評価や同僚評価など、360度評価を行う。このように、がんばっている教員をきちんと評価し、それに応じた処遇をするのです。公正な競争原理を導入することは、自発的に勉強する学生を育てるだけでなく、これからの日本の社会や大学をも活

性を高めることでしょう。「人・本・旅」については学長就任後、学ぶ仕掛けづくりを行っています。「本」は、私が推薦する30冊の図書リストを作成し、今春の入学式で全学生に配布しました。この夏には、私が客員レビューアーを務める「おすすすめ本」の紹介サイトHONZのメンバーと学生の交流会を企画し、読書への入り口を増やすことを考えています。

「旅」については、日本人学生を対象に、短期、長期を問わず、

